

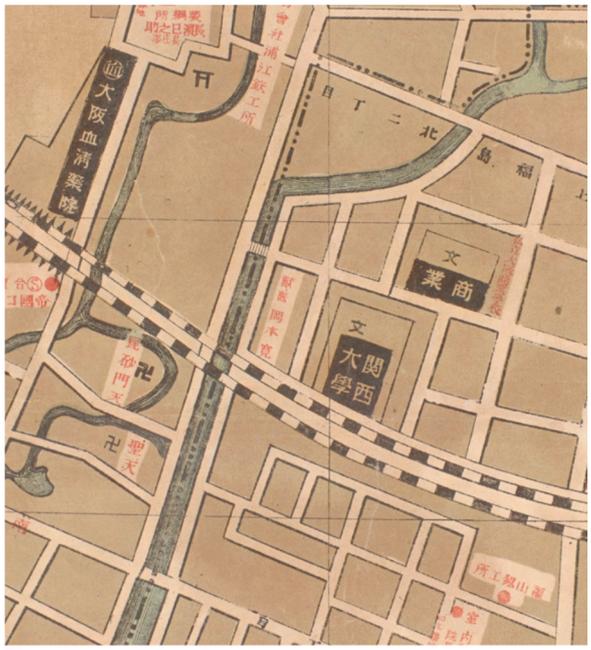
『大阪市及附近営業者紹介地図（實地踏測）』

大正3年 清水吉康（編集） 有信社 187cm×213cm 関西大学専任教員研究室資料

近代大阪地図では最大級の大きさである。大正2年の『大阪市街全図』と同じく、大阪市内の商店、会社、工場などが印刷されている。この種の地図は、すでに明治33年『大阪市業務案内地図』（博営社）が出ている。

この地図の興味は、編集人の清水吉康の一文にある（全文は巻末に掲載）。「於茲乎、奸悪の徒、往々四方に跋扈して、神出鬼没巧みに悪策奸計をめぐらして、世人を瞞着し華主をして其真偽黑白を疑惑せしめ其間にあつて豹狼の欲を恣にせんと謀りつゝあるなり、之れ実に名誉と信用を有する実業家を阻害するの甚だしきものにして、前途寒心に堪へざるなり。抑も本国に各種の実業大家を摘録するに就ては嚴重周密なる調査の基に、確實にして而も信用赫々たる諸名家を網羅載記したれば…」。清水はなぜ、このような過激な一文を残したのか。大正2年に大阪毎日新聞付録で発行した『大阪市街全図』に、その答えがあるようだ。12ページの解説にも述べているように、この地図には、相場師、やり手の商人とその商人の会社、商店が多数掲載されている。岩本栄之助も庶民から見れば「奸悪の徒」であり、「岸田市兵衛」は菊田一夫が「売られた」とまで言う人物である。この地図も『大阪市街全図』も、掲載料を支払うことで印刷されていると思われ、両方に掲載されている商店、会社も多い（関西大学も両方に掲載されている）。すべてが「奸悪の徒」ではないが、地図を多く手がける清水にとっては、そのような相場師たちの名前が出る地図は、許し難い存在であったのだろう。付図の「諸国売捌所」と「三府売捌所」を併せて100店以上あり、各地で販売される以上、自らの手になる地図に「奸悪の徒」を載せることは、地図の評判をも汚す、とまで考えたかもしれない。

それだけの自信のある地図だけに、確かに後に発展する会社や今なお営業を続ける店舗が多く掲載されている。空堀の「ふとんかやぜにや本店」は、現在も営業を続けている。地図に描かれた古銭のロゴマークを今も見ることができる。現在淀屋橋で営業を続ける石原時計店は心齋橋の南詰に見える。北久太郎町の濱地耳鼻科の地下には相撲の土俵があったと、空堀のワークショップ参加者からお聞きした。濱地藤太郎医院長は女子医学教育の先達で、大阪女子医学高等専門学校（現在関西医科大学）の設立者だ。憩いの場としての新世界も、現在と同じ区画になっている。桃谷駅の東側には「純生牛乳直配達 御勝山牧場」がある。天王寺駅西南には「清潔式全乳卸小売 原田牧場」がある。大阪市内周辺に、この時代は牧場があったことがわかる。のどかな風景だっただろう。一方、難波橋は新旧2本あり、新橋には市電線路が通っている。道頓堀五座もあり、出雲屋と柴藤の名前もあり、町の喧噪が聞こえてくるようだ。そしてこの後、大阪は「大大阪」へと成長を続けることになる。



・ 関西大学福島学舎